

受賞名：警察庁長官賞

タイトル： やさしいおまわりさん

氏名： 重國 愛奈

小学校名：石川県 能登町立宇出津小学校 三年

「ありがとう。いいことしたね。」

道に落ちていた小ぜにをわたした時、そう言って、にっこりわらって頭をなでてくれたおまわりさん。少してれくさかったけど、その大きい手はとってもあたたかくて、わたしの心もぼかぼかになりました。

わたしは、小さかったころ、しっかりとぎっていたはずの百円玉をどこかに落としてしまい、かなしい気もちと、ふ安な気もちでいっぱいになって泣きながら家へ帰った日の事をおぼえています。そのけいけんがあつてか、今回とどけた小ぜにをひろった時、同じように小さい子が落としてしまった物なのか、落とした事さえ気づいていない人の物なのかは分からないけれど、わたしではないだれかにとって大せつな物だという事にかわりない。と、しっかり思える事ができたのかもしれません。

わたしは小さいころから、お父さんやお母さんから、自分がされたくない、言われたくない事はぜったいに人にしない事。してもらってうれしい事は、少しゆう気を出してでもしてあげよう。きっと自分にかえってくるからね。と言われてきました。小ぜにをおまわりさんにとどける事は、学校の落とし物を先生にとどける事と同じなのかもしれません。でも人見知りのわたしにはとてもゆう気がひつようでした。そんなわたしのようすを見て、おまわりさんがえ顔で頭をなでてくれたあつかい手は、一番のおかえしでした。こまった人のために一歩ふみ出すゆう気がだれかをえ顔にしてくれるんだという自しんにもなりました。

おまわりさんは、わたしたちみんなのそばでやさしく見まもってくれているお父さんみたいだなと思います。わたしはそんなおまわりさんがいてくれるこの町が大好きです。